



生命尊重推進の会 天使のほほえみ

会報 第28号

イラスト © あべまりあ

発行所
天使のほほえみ

発行人 鎌田久子
編集人 野田滋美

常務の国「ご遷宮を経て 「日本再生、生かす運動」を

理事長 鎌田久子

一昨年政権が自民党に戻り、正しい国家観に根ざした安倍首相が誕生しました。第一次内閣より雌伏三年三ヶ月を経て、肩の力を抜きて「日本再生をこの期にやらねば」という覚悟で、歴代首相の中でこれほどの活躍をして下さる首相はいません。

二十年毎に新たな生命を取り戻す、世界に類を見ないお伽話のような『常務の国 日本』は、62回目のご遷宮を経て一歳を迎えました。

全国被災地へのお祈りや励ましのご行幸啓を重ねられ、国民を勇気付けられる天皇皇后両陛下が、天照大御神の正当なご子孫の証である三種の神器を、戦後その回数が少なくなつてしまつた「劔璽(劔と勾玉)ご動座」され、お健やかに伊勢神宮に参拝される様子が、晴れて産経新聞に二回、NHKのテレビニュースにもなりました。今の「奴隷憲法」を国是とし、これを改正する事を反対する人間は、日本民族ではありません。「必ずや明治憲法を復活させましよう！」

玉音放送を聴いて、大人皆が泣き出しました。幼かった私は「燈火管制で暗い夜ばかりだったけど、それがなくなつてうれしい」位の単純な気持ちでしたが、その占領期間の間に日本はいかに大きなダメージを与えられていたことでしょうか。

しかしともかく占領国、アメリカなどの一州にもならず、国の元首とそれが、形だけでもそのまま独立国として残つたことは、奇跡中の奇跡でした。

古事記編纂1300年を経て、世界の人が「日本はすごい」と思い始めています。いよいよご遷宮を経て、世界人類光明化運動「殺すのでなく、生かす運動」へ全ての人類を生かす運動が始まります。全ての人の、そして我らの、言葉の力、行動の力があらゆる光となつて、人類の発展に尽くす日本の使命実現に貢献していきます。

私は肉体年齢は重ねていますが、年を経るごとに若返ると念じています。

六年後のオリンピックには、応援しつつ、本来世界の中心である日本がますます世界に発展していくこ

の期に生まれ合わせたことは、ご先祖と両親の愛の賜物であり、生かされた使命を精一杯、真心籠めて果たしていきたいと願っております。

皆様、ご一緒にがんばりましょう。



平成26年5月23日

総会・記念研修会

代々木にて今年度の総会並びに記念研修会を開催致します。詳細は総会案内、研修会チラシの通りです。

日時 5月23日(金)

総会 13:00 ~ 13:20
研修会 14:00 ~ 16:30

場所 代々木

国立オリンピック記念
青少年総合センター

総会 センター棟 409研修室
昨年度報告
今年度計画
その他

研修会

主講師 茂木弘道先生

世界出版社社長

副講師 鎌田久子理事長

テーマ

「太陽の国 日本の使命」

— 明治憲法復元、原発再稼働 —

今回は総会記念研修会に、国がなかなか発信しない日本の正しい情報を「史実を世界に発信する会」で全世界に発信し続けておられる茂木弘道先生にお出で頂きます。

「ゆとり教育」「小学校からの早期英語教育」への反対運動をされ、「慰安婦問題」での米下院決議全面撤回の働きかけや、放射能への恐怖心を煽るマスコミ等の欺瞞に対し、「科学的視野に立った原発再稼働論」を展開されています。是非、ご参加下さい。

お友達をお誘い下さい

年会費 個人 正会員 2千円以上
賛助会員 5千円以上
篤志会員 1万円以上
法人 一口 5千円以上

郵便振替口座
00100-6-316987
天使のほほえみ

(住所変更の際は是非ご連絡下さい)

生まれて来る生命に、大切な子どもたちに、日本人としての誇りと喜びを！

公益財団法人人生長の家社会事業団理事
児童養護施設生長の家神の国寮副施設長
児童養護実践学会会員
國弘昭義 先生

平成25年9月28日(講演)

はじめに

私は「生長の家神の国寮」という児童養護施設で副施設長として働かせて頂いております。今日は「天使のほほえみ」の研修会という事で、二つのことで、皆様と一緒に勉強したいと思っております。

一つは、「日本人としての誇りを取り戻す」ということです。今は、児童養護施設で子ども達と生活をともにしていますが、いかなる環境に生まれ育った子どもたちであっても、人として幸せな人生を送ってほしい、すばらしい人生を立派に生き抜いてほしいと願っています。しかし、今、学校においても家庭においても人として大切なことが本当に教えられているのでしょうか。私は、教育の根本は「この世に生まれてきて良かった」と思える子どもたちを育むことだと信じます。「この世に生まれてきて良かった

た！生んでくれてありがとう！」と言えた時、人は自己肯定感を深め人生を前向きにとらえることができる。「日本に生まれてきてよかった！」と感じることができた時、国家社会に貢献するすばらしい人生を創造したいと思えるのではないのでしょうか。その意味で「日本人としての誇りを取り戻す」ことは現代日本の急務だと思えます。もう一つは、私共が運営しております「公益財団法人人生長の家社会事業団」の創立者であります谷口雅春先生の人間復興、国家再生の思想哲学についてお話し上げたいと思っております。

の社会をどう変えていくかという事等について、実は谷口雅春先生は、終戦直後から昭和60年6月17日に亡くなられる時まで、胎児の生命を救わねばならない、日本を占領憲法に支配された日本ではなくて、本当の日本を取り戻さなくてはならないと訴えられ、渾身の言論啓蒙活動をしてこられました。今、安倍総理が「日本を取り戻す」と声を大にして叫んでいることは、実は谷口雅春先生が唱えてこられた事そのものであると言っても過言ではないと思えます。



社会的養護と児童養護施設役割

今、児童養護施設で預かっている子ども達(措置児童)は全国で約3万人います。東京には約3千人ほどが、約60箇所の施設で生活しています。私共の施設も52名の子ども達を預かっており、2才から18才迄の子供達がいます。かつての孤児院というのは、ほとんど両親が亡くなったり、親

のいない子ども達が生生活を共にしていません。私共も当初は、日本が敗戦し東京は焼け野原になってたたくさんの浮浪児と言われる戦災孤児がいましたが、その戦災孤児を赤坂の地で収容してお世話をしたのが始まりで、法人創設者で初代理事長が谷口雅春先生でした。ところが、今の児童養護施設で何が一番違うかと言うと、親御さんがいる割合が非常に高いということです。さまざま理由や家庭の事情があつて、例えば、児童虐待で愛情を傾けてくれるはずの父や母から肉体的精神的暴力を受けると子ども達をどうしても引き離さざるを得ないとか、あるいはシングルマザーで、そのお母さんが、鬱病にかかったりとか、いろいろな事情で子どもを養育できない。そういう養育困難になったときに、公的な責任として、社会的に養護を行う場所として、一つのセーフティネット、最後の砦として「児童養護施設」があります。

各都道府県に児童相談所があります。そこに子ども達が一時的に預かれます。そして措置と言ひまして、それぞれの施設の空き状況などを見て、この子を預かれますかという事で預かっております。だから、私達が子どもを選ぶのではなく様々な事情の子ども達が措置されて来るのです。親としての誇りと責任と愛情を取り戻す」と



日本の国が、今一番大きな課題として抱えているのは、外に対しては「自立国家」になるといふことです。「自らの国は自らで守るんだ！」という気概を無くした国は必ず滅びます。しかし今は内部崩壊の危機をはらんでいます。私達がいま預かっている子ども達の家庭のように、その内部崩壊の危機の象徴的な事象は、家庭が崩壊しつつあるという事です。家族がバラバラになってしまふ。その根本には、親が子どもを「モノ」のように扱う思想が日本人の心の中に出来てしまったのではないかと思ひます。かつての日本人は、「子宝」として、「神様からの預かりもの」「神様からの賜物」として自分の子供を慈しみ育て上げていました。まさしく親は、子ども達にとっ

以外の何ものでもありません。今でも子ども達の意識は変わっていません。放置されている子ども達、あるいは、中には身体的な虐待を受ける子ども達もいます。明らかに身体が傷つき痛がっているのに、その子達は何と云うと思いませんか。「これどうしたの？」と聞くと、絶対に「親がやったとは言いません。」「ちよつと転んだだけなの、お父さんお母さんは悪くない」と言います。そういう子ども達の姿を見せつけられると、本当に「親」の責任が一番問われている「親が親としての誇りと責任と愛情」を本当に取り戻して行かない限りは、この国がいくら経済的に繁栄しても、何か空虚なものがズクツク残っていくように思うのです。

東京オリンピックと

日本の世界史における使命

そこで、僕は第二次安倍内閣ができて本当に喜んでます。皆さんもそうでしょう。明るいですよね、今の日本は。この前もアメリカで、「バイ・マイ・アベノミクス」と、そういうユーモアたっぷりの演出をされましたが、ユーモアでああいうことを言えるというところは、余裕

が出て来た証拠なんですね。安倍首相の中に一つの風格を感じます。それは、今この日本を、この時期に変えていかななくてはならない。安倍さん自身の心の中にも、おそらく今自分の内閣のときに憲法を変え、本当にこの国を良くして行こう、そういう決意と覚悟が漲っている。それがまた自信になっているのだと思います。

安倍首相や関係者の努力のおかげで、東京オリンピックが再びやって来ます。50年前のオリンピックでは、私はアベベのように走って学校に行った思い出がありますが、何よりも感動したのは、肌の黒い人も、黄色い人も、白い人も人種を越えて92ヶ国が参加した、アジア・アフリカで初めて開催されたオリンピックが50年前の東京オリンピックだったことです。

それは何を意味するかというと、あの「大東亜戦争」の意義を、われわれ日本人はもつと誇りを持って語らなければならぬということ。あの東京オリンピックは、アジア・アフリカの国で初めて開催されたオリンピックでした。それまでは欧米のオリンピックだった。ヨーロッパとアメリカでしか開かれてな

かったオリンピックが、初めて世界に広がっていった事です。それは、かつての日本が、大東亜戦争を戦い抜いてアジア・アフリカの国々を独立に導いた、その世界史における偉大な役割を果たしたことの必然的な成果だったと思います。

私達はもつと胸を張って、あの「大東亜戦争」によって日本は国破れ国土は焦土と化したかもしれないけれども、しかし、私達の先人が命懸けで戦い、あの特攻隊員をはじめ戦塵に散った数多の英霊の方々が尊い命を投げ出されたのは、世界の有色民族の国々を独立させ解放していく大きな使命を持ってあの戦争を戦ったということ。それを明らかにして行かなければなりません。そういう所から、日本人の誇りが回復されて行かなければならないと思うのです。

**平和教育の名の下で行われた
ひどい反日教育**

何故私が、このことに一所懸命になるかと云うと、私自身の幼少



時からの体験に由来します。私は、父が広島で原爆を受けて、その被爆二世として育ちました。父が被爆したのは爆心地から2.4キロのところ。2.4キロといったらほとんどの人が死んでいます。有難いことに父は助かりました。なぜ助かったかというところまで寝ていたからです。何が幸いするかわかりません。血を吐いて布団をかぶって寝ていて野外にいなかったことで助かったのです。その後、本家の山口県柳井市に帰ってきて寝たきりになります。そういう中で有難いことに谷口雅春先生が神啓を受けて書かれた聖典『生命の真相』に出会い、父は奇蹟的に命を取り留めるのです。

その後父は結婚し僕が生まれました。広島や山口には「被爆二世の会」というのがあります。これは大体、日教組の先生たちがやっている集まりですが、僕らはお菓子貰うために行ってた。いろんな遊びをして帰るたびに、日教組の先生が話をするわけです。大抵こんな話をします。

「お前のお爺ちゃんとお婆ちゃんがお前が原爆で死んだのも、お前のお父さんが原爆を浴びて苦労したのも、全部あいつのせいだ。天皇が侵略戦争を行ない、天皇が自分

の立場を守るために終戦を遅らせて、そしてあの原爆が落とされたのだ」と。



そういう教育を、僕らは受けて来ました。歪んだひどい教育です。戦後の平和教育と称する、特に広島の『平和教育』はそういうのが徹底してされてきました。

**戦後教育の中で抜け落ち
歪められた三つの大事な物**

戦後教育の中では、三つの大事なものが抜け落ち歪められています。一つは「歴史」です。歴史認識という言葉があります。歴史は現代の価値観をもって認識するのではない。歴史は、本当にあったことを、善いことも悪いこともひっそく承めて、私達の祖先がどんな時代に、どんな努力を積み重ねてきたかという虚心に振り返る、それが一番大事な歴史の話なのです。戦後教育では日本の歴史は徹底して歪曲され、あたかも日本人の祖先の罪悪史の観を呈しました。

二番目は、「国家」です。国家という視点が欠落してしまいい、国という言葉を開くと何か個人の自由を抑圧する対立概念のように感じてしまう。社民党の選挙のポスターには「優しい社会」と書いてある。優しい社会も厳しい社会も「国家」あつての社会です。国つていうものが何か自動的に守られているような。でも、ほつといたら、国は潰れてしまいます。それは世界の歴史が示しています。

三つ目は、子ども達の心の中に愛する人や家族や国のためならないのちを投げ出してもかまわないという価値観を涵養することが教育の中から失われてしまったことです。つまり、自分の肉体的生命以上の価値を教えられずに育ってしまった。

戦後教育で「歴史」が失われ、「国家」が失われ、「肉体的生命以上の価値」があるということが失われてしまうと、結局人間は動物と何ら変わらないことになりまます。いや、動物以下かも知れない。(註1)

かつて明治維新当時来日した欧米人から、世界で一番子どもに優しい国と称讃された日本において、今、本来養育すべき、愛すべきわが子を虐待してしま

うような、そういう社会の風潮が生まれてしまつています。今一度私達は、誇りある歴史を回復し、美しい日本の国に生まれ来てよかつたという、そういう誇りを取り戻さない限りは、家庭の再建も教育の再生も少子化を乗り越える力も生まれてこないと思います。

僕の一歩の奇蹟は お母さん！

ここに私達の施設の機関誌を持つてきました。私どもの施設では、お父さんお母さん有難うございます」ということを、食事の前に必ず言うようにしています。それは、いろんな人から反対の意見もあります。親から虐待された子ども達に「お父さんお母さんありがとう」と無理矢理いわせることないじゃないかと。しかし、『この世に生まれてきたことそのことにまず感謝することによつて、今たとえ親と別れて暮らさざるを得ない辛い環境におかれていたとしても、人生を前向きに肯定的に捉えることができるようになります。必ず幸せな人生を送ることができると書いてある通り、「ありがとうございます」といふ言

葉はたいへん素晴らしい魔法の言葉なのです。

一人の児童の体験を紹介します。「おっちゃん！話がある」

高校3年のA君が声をかけてきたのは、東日本大震災が起こつた年の8月の暑い日でした。

「正直に言う。おれ、中学生までは『何で、こんなところ(施設)にいなければいけないのか・いやだ！いやだ！』って思つてきた。ずつと・』でも、高校に入つてからは少しずつ気持ちが変わつてきた。そして、この前の東日本大震災で2万人の人がいっぺんに亡くなつたけど、僕は生きています。不思議な気がした。いろいろなことが重なつて、今の自分があるつて思うと、何か『奇蹟』みたいなこと連続するに思う。ここ(神の国寮)にいることも何かすごいことみたいに思う。自分がこうして生きていることも、産まれて来たことも『奇蹟』じゃないのか！」

彼は父親をまつたく知りません。そんな彼を変えたのは「母親への感謝のころ」でした。「オレはお父さんの顔も知らないし、会つたこともないし、会いたいとも思わないけど、でも、お母さん



はたつた一人でおれを産んでくれたんだよな。もし、17年前にお母さんが中絶でもしてたら、おれは今いない・・それを考えたら、これつてすごいことだと思ふんだ。本当に奇蹟だつて思ふんだ。だから僕の第一の奇蹟はお母さんなんだ！」

少し涙目になつたA君は絞り出すような声で言いました。「僕はこのお母さんを幸せにしたい。だから、僕は大学に行きたい。大学で好きな日本の歴史を学んで、立派な日本人になりたいんだ！」

この様に、この世に生まれて来たことその事が本当に有難いという教育ができたなら、お腹に宿つた赤ちゃんを「中絶」するような発想にはなりません。

戦後の日本人の手足を縛る 憲法「教育」「生命観」

あのNHKの朝のドラマのあまちゃん、今日終わりましたね。あのあまちゃんのテーマというのは、やっぱり「家族」なんです。私は東北地方が大震災の2ヶ月後に、岩手県、宮城県、福島県の児童養護施設を回つてきました。南三陸町に行つたときに、まだ水も引いていませんでした。荒涼たる風景です。

かつて写真で見た、戦争で爆撃にあつた焼け野原のような荒涼たる風景がありました。ところが、僕は感動しました。被災したその人たちに励まされるような、そこにいる日本人の姿を見たんです。みんな助け合つていた。自分がわれ先に、本当は食糧が欲しい、われ先に水が欲しい、何が欲しいじゃないんですよ。震災した3日後、みんなお腹すかしているにも拘らず、やつと届いた食糧の前に、あるお婆ちゃんが言つた。

「もつと奥に、もつと辛い人がいますから、先にそつちに持つていって下さい」と。

普通だつたら2、3日ろくな物を食べてなかつたら、われ先に欲しいじゃないですか。それを見た米兵は、「そういう日本人が居るんだ。アメリカじゃ考えられない、世界じゃ考えられない」と。そういう意味である東日本大震災は、日本人に大きな誇りを感じさせてくれる啓示になりました。



戦後の日本人を手枷足枷しているものがあります。その第一が憲法です。この国を縛つて

国家としての独立自尊を阻んでいる。『諸悪の因』と言っても過言ではありません。

もう一つは、「教育」です。戦後の教育の中身を変えなくちゃいけない。日本人として生まれて良かったという、誇りある日本人をつくる教育ではなくて、謝罪するような、何か後ろめたいような、戦前の日本は真つ暗闇のような、そんな歴史を教えるような教育じゃない。もつともつと誇りある日本人の教育内容に変えるべきです。

もう一つは、「生命観」です。生まれて来る子供は、すべて祝福されて、この世に意味があるから生まれて来るわけでしょう。子供は尊重されなければいけない。お腹の中にあるという理由だけで中絶していいものか。絶対にそれはしてはならないことなのです。

昭和天皇の大御心を知って
生まれ変わった！

私は被爆二世として生まれ、反国家・反天皇という『平和教育』を受けて来ました。しかし、本当に歴史の真実が分かったと生まれ変わることが出来ます。私は高校2年生のときに、初めて歴史の真実に触れ、その話を聞

き、私は変わったのです。

あの終戦の御聖断。昭和20年8月9日、14日の2回にわたる御前会議がありました。その時に、昭和天皇は、鈴木貫太郎首相と肝胆相照らして、御聖断を賜りました。たとえこの自分の命がどうなるうとも、この国を救いたい、陛下の御聖断はまさに「無私の大愛」そのものでした。

爆撃にたふれゆく民の上おもひいくさとめけり身はいかならむとも

身はいかになるともいくさとめけりただたふれゆく民をおもひて

この終戦の御製を初めて詠み聴かせて頂いた時、僕は涙が流れて仕方なかった。そして陛下は、マッカーサーとの会見に臨まれます。陛下が第一声で、今度の戦争の一切の責任を負う者として自分はこの場に来たころうとも、国民が今、飢えて苦しんでいる。その飢えをなんとか



したい。それで皇室財産の一切を投げ出された。

そして、昭和21年から29年まで足かけ9年間、北は北海道から南は九州・鹿児島まで3万3千*、全国を巡幸なさいました。広島にも来られました。昭和22年の12月7日、被爆地広島市の奉迎場では5万人の市民が出迎えました。広島県下を巡幸での県民の奉迎人数は4日間での約百万人に達し、県民の約半数が奉迎に出たことになりました。(註2)

原爆の直後ですよ。草木が50年は生えないだろう」と言われた広島島の街に、陛下はわずか一年半後に行幸され、原爆病院に入院していたお爺ちゃんベッドにもお立ちになられました。その時の感激の日記が残っています。

「我が人生最高の感激の日なり。天皇陛下、戦争に負けて済みません。天皇陛下、戦争に負けて済みません。我れかかる病状なれども一刻も早く病状を回復せしめよ。日本再建のために働きます。陛下、働きます。陛下、働きます」

これが偽らざる当時の国民の心情ですよ。天皇が勝手に戦争を起したとか、天皇のせいで原爆を落とされたみたいなことを言うのは、後知恵であり、日本を貶

める確信犯の言う事です。

谷口雅春先生の憲法論

最後に「憲法」の話をします。谷口雅春先生の「憲法論」です。(註3)

先ず国体について、「国体とは国の面積のことではない。また相手の国を叩き伏せる暴力的威圧のことでもない。我が国の国体は、天皇の大慈悲が国を貫いているということ」と説かれています。

そして、現憲法の成立過程と現憲法の無効性、青少年の非行や道徳性の退廃の問題等の淵源が現行憲法に由来することを端的に示されています。

「占領軍の占領政策として、無理にサーベルの圧力下に於いて定められた憲法は、日本の独立、そして占領の停止と共に停止せらるべきものであり、それを後生大事に護っている如きはまことに嗤うべき時代錯誤である」(昭和28年『限りなく日本を愛す』)

「占領軍起草の『日本国憲法』と『教育基本法』には、国家の尊厳と国家の個性を重んじる精神が欠けている。このままでは『国家は統一力を失ってバラバラに分解して、幾十年か先には、日本



国家はバラバラに崩壊する時が来る。』そして、神勅に基づく「天皇主権」という尊重すべき日本国家の個性を、アメリカの個性である「国民主権」に入れ替えを行った占領憲法は、絶対にしてはならない国家個性(国体)の入れ替えを行った「占領行政基本法」であり、「憲法の中に日本の個性と伝統を奪還しない限りは戦争も終わつたとも言えないし、アメリカ精神の占領が終わつたとも言えない」(昭和50年8月号の『明窓浄机』)

谷口雅春先生は、GHQの策謀によって日本が国家としての生命を奪われ、バラバラに崩壊し分解しつつある状況を憂慮され、一日も早く明治憲法復元・改正を実現するため、このような文筆活動と、具体的な政治活動を展開して行かれました。

おわりに

谷口先生は戦後中絶された胎児の声なき声を聞かれて、昭和48年に「子供」という題のお歌を作られました。

戦後ころされし胎児五千萬嗽々
(しゅうしゅう)として泣く聲きこゆ

◆ 今現在では中絶児は累計すれば一億二千万人と言われている。谷口先生はこのお歌に示されたように、胎児を救いたいとの悲願のもと、胎児の生命を守る運動、優生保護法改正の運動を渾身の力を籠めて展開されました。

親が自ら、自分のわが子を殺すというようなことを繰り返してはなりません。「積善の家に余慶有り」という言葉がありますが、中絶を行って来たその業は積善ではなくて、積悪つまり悪業を積んで来た。今、家そのものが衰微し、バラバラになっている状態は、この「中絶」の問題と切り離しては考えられないと、私は思います。

天使のほほえみの生命尊重運動がすばらしく発展していく事を祈念致します。

《参考文献》

(註1) 山田輝彦氏「戦後思想」の克服のために『日本への回帰』第1集 参照

(註2) 『昭和天皇』出雲井 晶編著 288〜270頁参照

(註3) 『私の日本憲法論』谷口雅春先生著参照

「ときとおか」

にしだひとみさん

おかあさん

わたしがおなかにいたときにどんな日々をすごしたのですか

あなたの感じたものごとを

まるごと一緒に感じてる

ちいさないのちを抱えることが

どんなにあなたを圧倒したでしょう

わたしの知らない

ときとおか

あなたが秘めていた悲しみ

あなたが抱いたいろいろな想いとつきとおかという時間

あなたがわたしを抱え続けた

そのことだけでも

一生分の愛をもらったと思う

おかあさん
いま
わたしね

新しいいのちを抱きながら
あなたのころも
抱いているよ

「いのちへ」より



日本を想う徒然のエッセイ

今啓パール 今井啓介社長

■「最古にして最新」

世界の何れの処に太陽よりも古いものがあるを聞かぬ。しかし、東天に向って昇天の旭日に対して

「古きもの又出でたるか」とは評するものが無いように。東天紅

々々として昇る威勢は高揚感に打たれる。正に新鮮に優る新鮮味を感ず。

故に最古にして最新とは太陽を指す所以である。日本の教えは古くして

新たなりの道。

■太陽主義とは日本国のこと。

今日の浅薄で唯物的科学の個人的発想に止まることなく、日本の

開闢は天照大御神に通じる、天の岩戸からの御出現で闇が一瞬にとけ、萬民は神前に神樂を奏して舞い狂ったのである。旭日昇天して大日本の使命が地上に皇道を敷く。丁度、太陽によって一切が生々發育、大自然とともに榮える。

■古えの日本人は親切で、笑顔がよくて、働きもの。お仕事に対してチップを一切受取らぬ美德の国。国柄が素晴らしく、世界で一番自由で、前向きであると。封建体制で抑圧され乍らも、欠して豊かでない貧しい時代だが、子供は到る迄正直で、素直で、笑顔が良かったと外国の旅行者の評価である。

■十年のブランクの日露の共同声明。北方領土交渉加速は良いが、露側に具体策が見えない。四島返還のチャンスには更なる戦略を要する。エネルギー協力は米側シエールガス応援の形で、日本を袖にできない事情を抱え込んでいる。露の中国の軍事力拡大に警戒もひとつの味方。腰を据えた解決で「交渉加速化」を訴えた安倍首相の強腰対応に期待。

■中国高官 失踪相次ぐ。習金平政権成立後から反腐败キャンペーン。政府や党の規律部門追及で各地の高官の失踪が、過去5年間逃亡を試み治安当局に検挙された官僚六二二〇名。

隣の韓国は大統領が変わるたび、どうした訳か自殺や逮捕と、日本では考えられない事が起きる。これ君と民の行儀の良さが出ているのでは。

■中国人民は皆知っている。

「よく嘘をつくメディアは人民日報、よく捏造する教科書は中国の教科書だ。お前等こそ毎日のように中国人民をだましているではないか。文革以来、一体誰が多くくの中国人民を惨殺して来たのか。

日本人ではないぞ。自国の歴史さえ正視できないこの国が、他国に正しい歴史観を求めることができるのか。嘘ばかり付くこの政府は、他人に真実を語れと要求できるのか、などと。中国政府の行う反日宣伝は完全に裏目に出ている。



理事就任の要請を受けて

天使のほほえみの運動は、神様の運動である

大濱 哲 文責 野田滋美

このたび小生は、鎌田理事長のご愛念で理事を拝命させて頂く事になりました。何も分らないことばかりですが、有難く拝受させて頂きます。

さて、谷口雅春先生は『世界平和を祈ると共に、三百万の胎児を見殺しにできない』と題して、こう述べておられます。

「宗教家が山に籠って坐禅瞑想のみに終始し、或いは教会で祈っているだけで、何の行動化をも起さなかったならば、毎年三百万人前後の胎児が母胎の中で惨殺されて引きずり出され、コマ切り肉のようにして棄て去られている悲惨な出来事を停止させることもできないのである。」

われわれが祈っておれば『誰かが行動を起してくれるであろう』などと、責任を他に転嫁して自分は何も行動を起さないのは卑怯なのである。・・・地上天国実現に、誰かが行動を起さなければならぬならば、先ず自身が行動を起すべきであるのである」(『人生の秘訣』365章 98頁)

その事を受けて、「天使のほほえみ」を起してその先頭に立たれて、胎児救済 国家救済の御旗を振って獅子奮迅の活躍をされておられるのが鎌田理事長です。これは、本当に凄いことだと思えます。

しかし、鎌田理事長は昨年9月9日、活動する旅先で転んで怪我をされ、それはもう大変な重症でした。多分皆さんは、あの祈りの深い鎌田理事長がどうして怪我をされたのか？と不思議に思われたのではないでしょう。私はこれには、深遠な原因があったと思います。それは、『真理』別冊に書いてありました。(154頁)

「即ち高級霊がイエスの肉体的及び幽体的エネルギーを使ったから、それが出て行くのを感じられたのです。『高級霊がイエスのエネルギーを使って相手の病患部へ注射してやる』わけであ

あります。だから、治す方の人はちよっとエネルギーが減るので、それでキリストも始終病気を治しておられたから、エネルギーを神の霊体本源から始終補給しておられたらしいのです。

『病氣の人を治すために、相手の病的念波を消滅させるまでに、一時自分が其れを受取って病氣の症状をあらわし』、余り忙しいからそれを浄化する暇もエネルギーを補う暇もなく、もう寝てしまおうと云うようなことになる。すると睡眠によって肉体の方は休まり、物質的エネルギーは補給されるけれども、『霊的エネルギーが足りない』ようなことも起って来るのであります。

…中略…
肉体のエネルギーは栄養で補給されても、或る時期まで休養して霊的エネルギーを補給しなかつたならば、霊的に再び全然起てなくなつたりします。すると、これこそ却って人類にとつて損失になりますから、高級霊がそのようなことの起らないように、『足止め』をされる為の病氣もあるのであります。」

しかし鎌田久子理事長は、奇跡的な回復をされました。そして其処には、不思議な体験があったの

でした。



鎌田理事長はあまりにも苦しいので、ある晩、神様にひれ伏す如く切実にお願いをされたのでした。「神様、私に使命が残っているならば、御心ならば再び元氣を与え給え」と。そして床につかれた。すると、「あなたには重大な使命がある」と告げられる不思議な夢を見られました。

その翌朝、眼が覚めて起きてみたら、あれだけ苦しくて仕方がなかつた身体が、濃霧が晴れたように、澄み切つた青空の如く晴れ晴れとした軽快な身体に回復していたのでした。今は元通りの、お元氣なお姿の鎌田理事長を拝見することができました。

私は、「この天使のほほえみの運動は、神様の運動である」ということがはつきりと分りました。小生これから皆さまと一緒に活動させていただきたいと思ひます。皆さま、どうぞ宜しくお願ひ致します。◇

「ありがとうの音色を響かせて」

高橋こずえさん
(高橋史朗先生奥様)

「生まれいづるいのちを
抱くあなたへ」

あなたのお腹に小さな生命が宿つたとき
「ありがとう」と言っておいて下さい
最初に聴くあなたからの言葉が感謝の言葉なら

その子は感謝される喜びを知るでしょう
感謝の贈り物を持っていくでしょう
「あなたを心から待っていました」と
言っておいて下さい
その言葉は
自分が望まれていること
自分がそこに存在することを
自然に肯定できる心を育むでしょう

そして あなたが
この世界で見た
すばらしいものの話を
たくさんしてあげて下さい



◇

「甦れ日本の心」より抜粋

文責 野田滋美

潜在能力開発センター 主幹 山口文弘 先生

福沢諭吉 学問のすすめ

福沢諭吉は「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」と言えり。されども『世に貴人あり』『下人あり』又『富人あり』『貧人』がある、このように差別ができるのは何故か。それは「学ぶと、学ばざるとによりて出来るなり」と言っております。

かれは学問のすすめの為にその大事さを説き、アメリカのジエフアーンソンが書いた独立宣言に使われている言葉を引用したのであって、平等主義を説いたのではありません。「学問をするは『独立自尊』の意思を培うなり」と説いております。そしてこそ国家の独立も確立できると……。さらに諭吉は

「もし一國の自由を妨げんとするものあらば、世界万国を敵とするも恐るるに足らず」とままで痛論しております。

自称民主主義者は、人間は皆平等であると主張しますが、その言葉は誤解され、又、為に利用される危険を含んでいるのであります。

彼等は福沢諭吉は「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」と言った。この言葉こそ平等主義の根本原理であつて、日本の天皇制は全く非民主主義であり、差別であると叫び続けています。

確かに人間生命の尊厳性は皆平等です。しかし現象的には平等ではありません。何故なら体験の相違、学問の差、人格の違い等を比ぶれば当然の事であります。平等は要求すべきものでなく、人格によつて認め合うべきものです。主義・思想による平等主張は、悪平等に傾く危険があり、心しなければなりません。

人間の尊厳性は生命の尊さであり、その意味においては人間は皆平等です。しかし、現象社会においては差異があり、使命が自ずと異なる事は当然で、それを以て差別の如く言うのは見当違いであります。

福沢諭吉は平等論を主張したのではなく、学問のすすめを世人に訴えたのであります。

活動報告

○3/20国会議員会館訪問をしました。森まさこ大臣、山谷えり子、有村治子、衛藤晟一、義家弘介各議員の先生へ表敬訪問し、面談又は資料のお渡しをしました。
○有識者への投書活動も実施中。
○地元へのチラシ配りをほぼ毎日ポスティング実施中。

皆様へ活動協力をお願い

チラシのポスティングを全国の会員さんが実施して戴ければ、とてもうれしく思います。印刷は、公民館・図書館等の公的な所の印刷器(オフセット)が利用できたり、さらに紙を持参すると非常に安くできます。公的な所をお探し下さい。

会員による「和歌」の紹介

- 「日の本を称える」 平岡辰夫
- 今に見よ君民一体万邦無比 必ず良くなる日の本の国
- わが国を誉め称えらる英国記者 その名をヘンリーSストークス
- 大東亜聖戦なりしこの大戦 忘るな世論この真実を
- ありがたや「今ある幸せ大切に」 ぐつと思つわがくらしかな

- 「第六十二回 伊勢神宮式年遷宮」 川久保勲
- 遷宮の祭に集う人のむれ 国の栄は揺るぎなきなり
- 日の本の民の心を一つにし 御白石を運ぶハレの日

- 「北海道 道央・道東・北方四島」 野田滋美
- 旭山各種動物係員 皆胸を張り意気に燃える 旭山動物園
- 北鎮の歴史や深し明治より 屯田日露大東亜に参ず 北鎮記念館
- 遊女らも祝出征と旗を挙げ 中島部落と素性隠して //
- 大雪の山並み白銀身にまとい 層雲の黒岳青天に屹立す 層雲峡
- オンネットー阿寒雌阿寒水に映え 白の双峯神宿るを見る センター
- 野付岬根室海峡青天の 国後択捉眼前に迫る センター
- 国後や択捉の山鮮やかに 我等を迎えん日本に返せと //
- 納沙布の岬の高台返還の 篤き思いの記念碑の群れ 納沙布岬

今後の行事予定

- ・4月9日(水) 佛所護念会での講演
- ・徳島講演会
- 日時 4月20日(日)
- 講師 鎌田久子理事長
- 場所 徳島県護国神社
- 主催 日本未来の会

- ・代々木 総会・記念研修会
- 日時 5/23(金)
- 講師 茂木弘道先生
- 場所 鎌田久子理事長
- センター棟409

- ・代々木一泊研修会
- 日時 11月24日(月祝)
- 場所 代々木青少年センター
- センター棟513

編集後記

本年度も宜しく願います。

